

物語のある絵画

—日本画と古典文学の出会い

主催：静岡県立美術館
 会期：平成17年6月10日(金)～7月18日(月・祝)
 休館日：毎週月曜日（7月18日は除く）
 会場：第1～5展示室

洋の東西を問わず、絵画と文学は古くから深い関わりを持ち、影響し合いながら展開してきた。日本においても、万葉の昔から詠み継がれ、各時代を通じて流行してきた和歌の伝統や、王朝文化を伝え日本の文化の原点として大切にされてきた古典物語などは、多くの絵画を生み出す源となり、両者は密接な関連の中で享受されてきた。加えて、絵画と文学との細やかで豊かな関連は、鑑賞者がそれを主体的に読み込んでいくことに支えられており、この点で、屏風や掛軸、卷子といった多様な画面形式と鑑賞方法とは、重要な役割を果たしていたといえる。

本展では、〈絵画〉と〈文学〉との豊饒で幸福な、また複雑な関係を、和歌、謡曲、古典物語などの文学主題を取り上げた絵画作品によって紹介した。

全体を5つの章に分けて構成し、近世から近代にいたるまでの作品を取り上げたが、特に鏑木清方と松岡映丘の2人については各一章をたてて紹介した。明治以降になると、それまでゆるやかにくられ享受されてきた日本の文化的所産はジャンルごとに分類され、それぞれに独立させられていくことになるが、〈絵画〉もジャンルとしての自立性・完結性が志向され、〈文学〉と分離されていく。その中で、〈絵画〉と〈文学〉との豊かな関連を受け継ぎ、表現しようとした画家として、清方と映丘のあり方はとりわけ注目されるためである。

展示作品には、当該場面の原典の内容を簡略に記したキャプションを付け、絵画と文学との関連付けを促す補助とした。また、王朝文学に関する講演会を開催し、文学に関心の高い人々への期待に応えるとともに新規来館を促すきっかけとした。

構成

- 第1章 語りの絵画、詠いの絵画（1室）
- 第2章 隠れたイメージ（2室）
- 第3章 文学の宿る風景（2～3室）
- 第4章 鏑木清方の挑戦（4室）
- 第5章 松岡映丘—王朝の雅への憧れ（5室）

チラシ写真

■カタログ

28.5×22.5cm（A4変形） 100頁

- ・エッセイ
 「〈絵画〉と〈文学〉が会うために—松岡映丘と鏑木清方」森充代
 「絵画と和歌の幸せなセッション」山下善也
 「文学の中の風景・絵画の中の風景」飯田真
- ・コラム
 「宇津の山と『伊勢物語』」森充代
 「《草枕絵巻》について」森充代
- ・作品図版
- ・資料
 作品・作家解説、原典解説、作品リスト

■関連記事

- ・毎日新聞（静岡県版）平成17年6月8日
 「文学に描かれた絵 物語のある絵画」
- ・静岡新聞 平成17年7月4日
 「響き合う絵画と文学」（森充代 当館学芸員）



▲ カタログ表紙

■関連事業

□特別講演会

- ・「王朝文学への招待」

講師：沢田正子氏（静岡英和学院大学教授）

7月2日（土） 14時～ 講堂

- ・「松岡映丘について」

講師：木村重圭氏（甲南女子大学教授）

7月9日（土） 14時～ 講堂

□学芸員が語るこの一点

「松岡映丘《今昔ものがたり 伊勢図》」

講師：森充代（当館学芸員）

7月16日（土） 14時～ 講座室・展示室

□学芸員によるフロア・レクチャー

6月12日（日）、18日（土） いずれも14時～

□ロダン館ミュージアム・コンサート

「吉澤実 音楽と絵画と文学と…」

吉澤実（リコーダー&ふえ）、永田平八（リュート）、

神戸愉樹美（ヴィオラ・ダ・ガンバ）

6月26日（日） 14時～ ロダン館

■出品目録

P.78～P.79ページ参照



▲ チラシ表紙